

**製品名: CCK ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08127**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

**抗原情報**

遺伝子名	CCK
別名	CCK; Cholecystokinin; CCK
遺伝子 ID	885.0
SwissProt ID	P06307
免疫原	抗血清はヒト CCK 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 46-95

**背景**

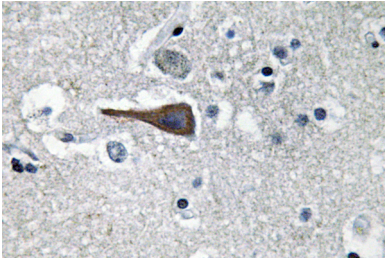
この遺伝子は、ガストリン/コレシストキニンファミリータンパク質のメンバーをコードしています。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解を受け、ペプチドホルモンであるコレシストキニン-8、-12、-33 などを含む複数のタンパク質産物を生成

します。コードされているペプチドは、胃酸分泌と摂食を調節することが示されています。硫酸化コレシストキニン -8 は、脳内の神経活動を調節する可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2015 年 11 月]、機能: このペプチドホルモンは、胆嚢収縮と腸管における膵酵素の放出を誘導します。脳における機能は明らかではありません。CCK-A 受容体に結合すると膵臓からのアミラーゼ放出が刺激され、CCK-B 受容体に結合すると胃酸分泌が刺激されます。、オンライン情報:コレシストキニン エントリ,PTM:前駆体はプロテアーゼによって切断され、多数の活性コレシストキニンが生成されます。、類似性:ガストリン/コレシストキニン ファミリーに属します。、サブユニット:膵臓の CCK-A 受容体と脳の CCK-B 受容体に結合します。、

## 研究分野

-

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における CCK 抗体の免疫組織化学分析。